

建築・木工関連職種

(金属屋根葺き, 左官, 建築大工, 建具, 家具)

職業能力開発総合大学校 前川 秀幸

HALL15では、金属屋根葺き (Metal Roofing)、左官 (Plastering)、建築大工 (Carpentry)、建具 (Joinery)、家具 (Cabinetmaking) の5職種の競技が実施されました。そのうち、金属屋根葺き、左官、建築大工の競技の様相について概要を紹介します。



写真1 HALL15競技会場

1. 金属屋根葺き (Metal Roofing)

「金属屋根葺き」職種は、建物に金属製の屋根を施工する技能です。競技では、木製の屋根組み台 (2m×2m) に板厚0.6ミリの銅板を用いて、立平葺きの屋根を施工します。屋根には四角と丸の煙突があり、軒先には銅製の半円型雨樋 (あまどい) を取り付け、すべて手作業で製作しなければなりません。煙突廻りは「板金工作法のはぜ組みにより、雨対策がよい出来となっているか」、「雨樋の水止めはハンダ付けで行われ、きれいに水漏れなく仕上がっているか」などが作業のポイントとなります。会場では、

板金手工具、シャーリング、折り曲げ機などを使用して、あらかじめ指定された溝幅の屋根 (立平葺き) を、美しく、正確に製作する技能を間近で見ることができました。参加選手9名の内、日本の代表として地元静岡県の久保拓也選手 (久保板金) が参加していましたが、後の8名はすべてヨーロッパの選手でした。金属屋根葺き職種は、日本は数十年ぶりの参加ということでした。成績としては、9名中6位ということで、入賞こそできませんでしたが、父親の経営する板金会社で、日々の仕事のかたわら、1日6時間以上も大会の課題練習に取り組んだ成果は、十分に発揮されたといえます。

2. 左官 (Plastering)

「左官」職種は、開催国が決めることのできる Host Member skills (HMS) の1つであり、参加選手は6名でした。競技の課題は、T型をした壁組と天井下地部分を軽量鉄骨下地と石こうボードで製作し、こてを使ってプラスター左官仕上げを施した壁に、置き引きした扇型等のモールディングを取り付けるものでした。当初の課題としては、天井組はなかったようですが、六角形の天井下地を製作する作業が当日追加されました。各国が持ち寄った30%の課題変更部分については、エキスパートの投票により、日本が提出した扇型のモールディングが採用となりました。参加選手6名の内、アジアからは日本、韓国、台湾の3カ国、後はアイルランド、スイス、フランスのヨーロッパの選手でした。日本の代表は

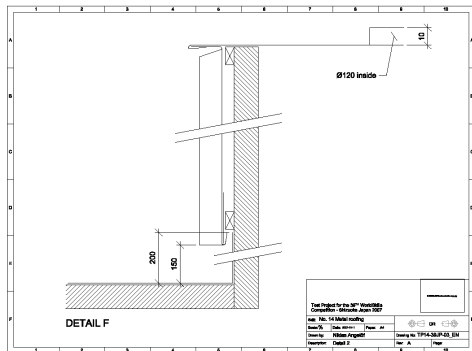
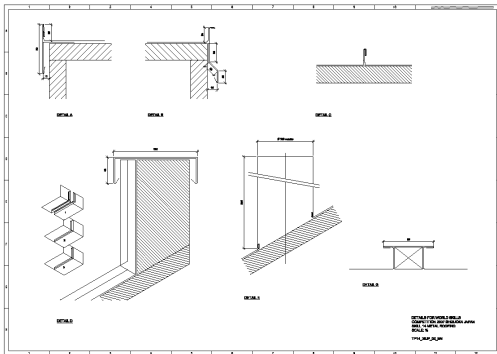
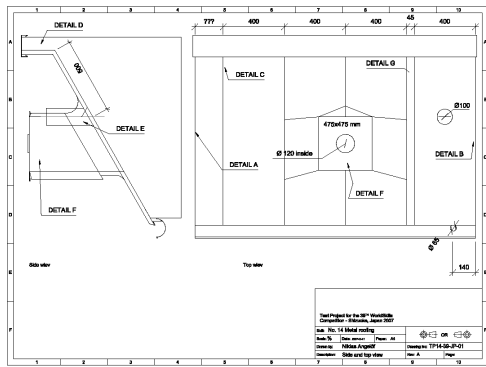


図1 金属屋根葺き課題図

3. 建築大工 (Carpentry)

「建築大工」職種は4日間合計で22時間という長時間の競技です。競技の課題は「壁」、「屋根小屋組」、「ドーマー（屋根窓）」の3つのモジュールに分かれています。作業は、現寸図の作成、墨付け、加工仕上げ、組み立ての順で各モジュール課題を製作し、最後に数種類の勾配垂木（タルキ）を配した屋根と屋根窓のついた木造建築物を完成させるものとなっています。本競技では、課題の事前公表はなく、選手は競技初日に課題図を読み取って、現寸展開図を描かねばなりません。参加選手10名の内、アジアからは日本と韓国の2カ国、後の8名はすべてヨーロッパの選手でした。このうち課題を完成させることができたのはわずか5選手であり、かなり難易度の高い課題だったようです。日本の代表である池田通憲選手（住友林業ホームエンジニアリング株）は、4日間を通して終始スムーズに各モジュールの課題を製作し、最初に全課題を完成させました。池田選手は、4月に職場である兵庫を離れ住友林業建築技術専門校で、過去の国際大会で出題されたいろいろな課題に7ヵ月にわたって取り組み、国際大会に合った方法を身体に馴染ませることから始めたそうです。さらに大会が近づくとつれ大会本番と同じような設定で過去の課題や今大会の予想課題に取り組み、本番では「完成させること」だけを無心に目指したとのことでした。池田選手は、作業の手早さ、確かな技術力、課題の完成度の高さと美しさにより、見

女性の堀美幸選手（株いりやまと）です。当日競技を見学したときの印象では、他国の選手に比べて小柄で、天井下地を組む作業が遅れがちと感じましたが、結果的には、堀選手が得意とする「こて塗り技術」のスピードと正確さにより、見事に銀メダルに輝きました。左官職種については、構法の乾式化により長期衰退傾向にあり、左官職人も減少する方向ですが、近年シックハウス問題や環境問題などの意識が高まるとともに、漆喰・珪藻土などの左官仕上げのニーズが増えており、堀選手などの若い左官職人の活躍が期待されます。

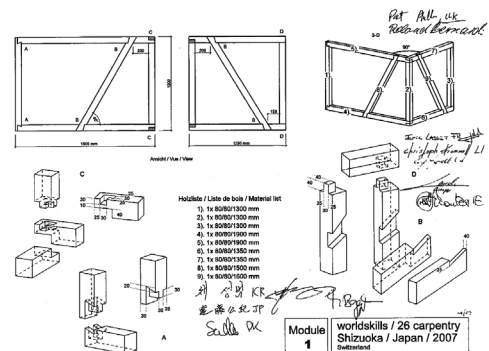


図2 建築大工課題1

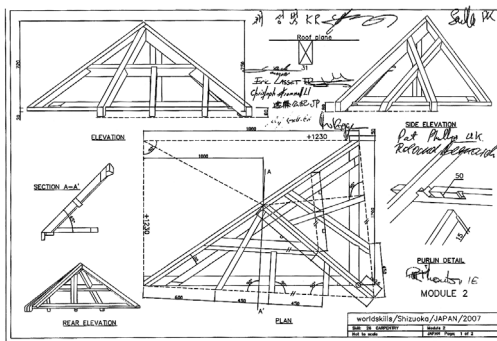


図3 建築大工課題2

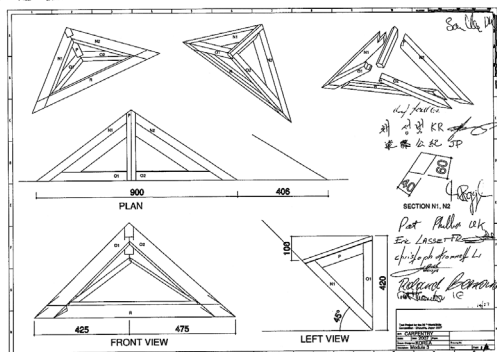
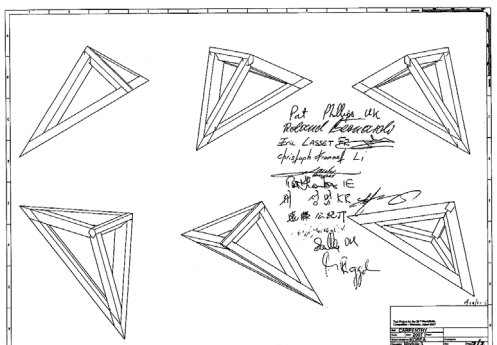
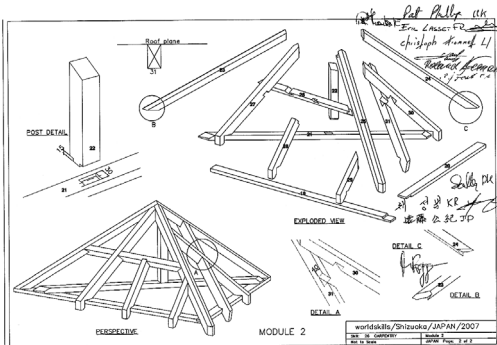


図4 建築大工課題3



事銀メダルに輝きました。本職種は、今大会の出場国が10カ国しかなく、次回大会で12カ国以上の出場がないと、正式種目としてはなくなってしまう可能性があり、出場国を増やすための方策について、各国のエキスパートで話し合われたとのこと。

4. その他

HALL15では、その他建具、家具の競技が実施されました。建具職種（参加19カ国）には、国内大会2連覇を果たした野々井義典選手（香川・丸生木工所）、家具職種（参加22カ国）には庄司卓磨選手（有インテリア北匠工房）が出場し、それぞれ「ヨーロ

ッパ風の窓枠・ドアフレーム」、「扉付きの机」に取り組み、多くの参加国があるなか、健闘しました。



写真2 多種多様な工具類（建具職種）